

令和7年度中学生議会会議録

日 時 令和7年 8月 5日 (火)

開会時間 午後 1時00分

閉会時間 午後 2時51分

場 所 加賀市役所 議場

議 長

中 学 生 議 長 西 穂菜実

質問者

中 学 生 議 員 出 口 裕 陸

中 学 生 議 員 佐 藤 千 聖

中 学 生 議 員 寺 前 歩 里

中 学 生 議 員 山 下 谷 空

中 学 生 議 員 伊 勢 谷 柚 葉

中 学 生 議 員 西 川 愛 莉

中 学 生 議 員 中 島 実 莉

中 学 生 議 員 澤 矢 直 都

中 学 生 議 員 掛 川 柊

中 学 生 議 員 南 優 駿

中 学 生 議 員 木 下 珀 人

補佐役議員

議 長 今 津 和喜夫

副 議 長
(司 会) 上 田 朋 和

議 員 上 野 清 隆

議 員 若 林 高

議 員 荒 谷 啓 一

議 員 一 色 眞 一

議 員 東 野 真 樹

議 員 中 川 敬 雄

議 員 南 出 貞 子

議 員 辰 川 志 郎

議 員 稲 垣 清 也

議 員 中 谷 喜 英

議 員 林 直 史

議 員 山 口 忠 志

議 員 林 茂 信

議 員 林 俊 昭

議 員 川 下 勉

出席説明員

市 長	宮 元 陸	副 市 長	深 村 富士雄
会 計 管 理 者 兼 会 計 課 長	重 谷 秋 穂	総 務 部 長	奥 野 俊 雄
政 策 企 画 部 長	岡 田 隆 之	イノベーション 推 進 部 長 兼 最 高 デ ジ タ ル 責 任 者	山 内 智 史
市 民 健 康 部 長	北 口 未知子	産 業 振 興 部 長	小 出 仙 憲 康
建 設 部 長	谷 口 睦	上 下 水 道 部 長	西 田 佳 津 男
財 政 課 長	高 橋 英 樹	秘 書 課 長	山 田 智 栄 子
医 療 セ ン タ ー 管 理 部 長 兼 加 賀 看 護 学 校 事 務 局 長	水 井 勇 一	教 育 委 員 会 長 教 育 会 長	松 本 向 貴
教 育 委 員 会 長 事 務 局 長	小 林 湧	代 表 監 査 委 員	浅 井 廣 史 (欠 席)
監 査 委 員 会 事 務 局 長	小 茂 出 健	消 防 長	大 和 克 幸

会 議

開会挨拶

中学生議会

講評

会 議

開 会 挨拶

○上田副議長 皆さん、こんにちは。当局の皆さんも中学生議員の皆さんも、暑い中お集まりいただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、令和7年度中学生議会を開会したいと思います。

開会に先立ちまして、まず、今津議長より御挨拶を申し上げたいと思います。

○今津議長 皆さん、こんにちは。

加賀市議会議長の今津でございます。

本日は、中学生議員の皆さんにおかれましては、貴重な夏休み期間中にもかかわらず、こうして御参加をいただきまして誠にありがとうございます。

この中学生議会は、皆さんが日頃から加賀市に対して抱いている疑問や意見について、市当局に対し直接質問・提案できる貴重な機会であるとともに、我々議会にとっては、将来の加賀市を担う中学生の皆さんが、議会や政治に対して大いに関心を深めていただくことができる大変貴重な機会であるとも考えております。

また、市長及び教育長をはじめとした市当局の皆様には、本日の開催に当たり御協力を賜りましたことを改めて感謝申し上げますとともに、中学生議員に対する前向きな答弁を期待いたしております。

本日の中学生議会が皆さんにとって有意義で充実したものとなり、また、加賀市のよりよい未来へつながることを心から期待し、加賀市議会を代表して御挨拶といたします。それでは、よろしく願いいたします。

中 学 生 議 会

○議長（西 穂菜実君） ただいまから加賀市中学生議会を開会いたします。

本日、中学生議会議長を務めます、山代中学校3年、西 穂菜実です。よろしくお願いいたします。

今回の中学生議会開催に当たり、サブタイトルをつけさせていただきましたので、御報告いたします。サブタイトルは「加賀のよりよい未来への第一歩を築く中学生議会」です。このサブタイトルには、各学校からのいろいろな意見や思いを集めて、加賀の未来をよりよくするための大きな一歩を築くことは難しいかもしれませんが、中学生で新しい未来を築く第一歩を踏み出したいという思いを込めてつけました。本日の中学生議会の経験を生かし、よりよい未来の加賀市を築くため、私たち中学生も努力していきたいと思っております。

それでは、本日の会議を開きます。

これより、私たちが暮らすふるさと加賀市の将来やまちづくりについて、私たち中学生の視点から、加賀市政に対する一般質問を行います。

通告がありましたので、順次発言を許します。

出口裕陸君から、質問に際し資料の持込み及び配付の要請がありましたので、議長においてこれを許可いたします。

出口裕陸君。

○**出口裕陸君** トップバッターを務めさせていただきます、東和中学校3年の出口裕陸です。自慢の滑舌の悪さを発揮しないように頑張りたいと思います。

私からは、東和中学校周辺の街灯について質問させていただきます。

東和中学校動橋作見間、動橋分校間の通学路には、非常に街灯が少ない地域があります。そこで、通学路にもっと街灯を増やしてほしいのですが、この件について市はどのように思っているのでしょうか。特に、東和中学校作見間の通学路の線路沿いの農道は全く街灯がありません。

ここで持込み資料を開いてください。

ここでは、秋季から冬季にかけての下校時間はとても暗くなります。そのため、隣の田んぼに転落、自転車同士の接触、歩行者への衝突の危険性があります。私も何度か友達とぶつかりそうになったり、ランニングをしていた人と接触しそうになったことがあります。けれど、街灯を設置しようとしても、その農道には電柱がないため、街灯を設置するのが難しいと聞いております。

ここで持込み資料を閉じます。

そこで、太陽光発電システムを利用した街灯を、下校時間帯だけに光る街灯をガードレールなどに設置することはできないでしょうか。時期を設定できるのであれば、帰り道が暗い秋季から冬季の間だけ光るような設定ができれば、作物に対する影響も少なくなるのではないかと思います。市の所見をお聞かせください。

○**議長（西 穂菜実君）** 松本教育長。

○**松本教育長** 東和中学校周辺の街灯についてお答えいたします。

市では毎年、加賀市通学路交通安全推進協議会を開催しています。この協議会は、大聖寺警察署、石川県土木事務所、市土木課、危機対策課、教育委員会がメンバーとなっており、通学路の危険箇所を取りまとめて、点検する箇所を決定しています。

出口議員御指摘の箇所は、水田と用水路に挟まれた農道で、用水路側に転落防止のためのガードレールはありますが、街灯は設置されていないため、冬季の下校時は暗く、協議会でも合同点検箇所とされました。8月中に点検予定です。

また、ガードレールへの街灯設置については、御指摘のとおり、現地には電柱がなく、電源が必要なタイプの街灯は設置できませんので、太陽光発電と蓄電池、タイマーを組み合わせた街灯が必要になると考えられます。その前提で、街灯取付け位置、安全性、盗難のおそれなどについて検討する必要があります。

また、環境省の光害対策ガイドラインでは、都市部、郊外にかかわらず、地域環境の特性に応じた光害対策を検討していくことが重要である。特に自然公園のような本質的に暗い地

域においては、照明を設置することにより、周辺に生息する動植物の生態系や夜空の明るさに与える影響は極めて大きいとあります。

これらを総合的に考慮し、また、協議会の点検結果も踏まえ、良好な光環境と安心・安全な通行の確保に向け、設置できるかどうかを検討したいと思います。

市としましては、今後も、児童生徒の通学時の安全を確保できるよう、関係機関と連携し取り組んでまいります。

○議長（西 穂菜実君） 出口裕陸君。

○出口裕陸君 以上で私からの質問は終わりたいと思います。ありがとうございました。

○議長（西 穂菜実君） 出口裕陸君の質問及び答弁は終わりました。

佐藤千聖君。

○佐藤千聖君 山代中学校3年、佐藤千聖です。

山代温泉街のフリーW i - F i について質問させていただきます。

私は、通学時に山代温泉街を通っています。そこでよく見かけるのが、楽しそうに風景やグルメの写真を撮る観光客の方々です。その光景を見るたびに、私は地元をととても誇らしく感じます。そこで、山代温泉を観光客でもっとにぎわうまちにするために、私からフリーW i - F i の設置について提案させていただきます。

私は、ふだんインスタグラムなどのSNSを利用しており、そこですてきな観光地などの投稿を見ると、行ってみたいと思うことがあります。そして、山代温泉もSNSを通じて多くの人に魅力を知ってもらえたらうれしいと思うようになりました。

しかし、現在、山代温泉通りにある店舗の中には、W i - F i が使える店舗もあるようですが、屋外ではW i - F i が使えません。そのため、観光客の方々がその場で撮影した写真や動画をSNSに投稿しにくい状況であると考えます。

もし温泉通りでフリーW i - F i を使うことができれば、観光客の方々が気軽にSNSに投稿することができ、地元のPRとして、より多くの人に山代温泉の魅力を知ってもらえると思います。また、観光客の方々も、スマートフォンですぐに地図を確認したり、キャッシュレス決済をしたりできるというメリットもあると考えます。

このように、フリーW i - F i を設置することで観光客の方が過ごしやすい環境になり、地元がにぎわうことで喜びを感じる地域の方々も多いと思います。そこで、市当局の考えをお聞かせください。

○議長（西 穂菜実君） 宮元市長。

○宮元市長 皆さん、こんにちは。

今日は、加賀市議会の御配慮、主催をいただきまして、こうやって中学生の皆さん方の真摯な質問に答えさせていただく機会をいただきまして本当にありがたいなというふうに思っておりますし、中学生の時代にこういう場で様々な発言をされるというのは大変に貴重な機会になったなと、なっているんじゃないかなというふうに思います。いずれは、将来、自分

も議会壇上に立ちたいなど、そんなことを思われる方も中にはいらっしゃるのではないかなと期待をしているところであります。

佐藤議員の質問にお答えしたいと思います。

インターネットの利用は年々拡大をしております、今では、若者に限らず広い世代でインスタグラムなどのSNSが利用されており、食事や旅行のいわゆる「映える」画像が盛んに発信をされております。

このような状況を踏まえまして、市ではこれまで、平成26年に、屋外公共施設にK a m o m a r u F r e e W i - F i を、そして平成29年には山代温泉の湯の曲輪（ゆのがわ）周辺など、市内主要観光地の屋外部分にK a g a F r e e W i - F i を整備いたしました。近年、国の施策によりまして、いわゆる5Gの普及や通信料の値下げなど、安く気軽にインターネットを使うことができるようになり、利用者は減少いたしております。

フリーWi-Fiは、利用するサービスが替わるたびに登録、認証が必要でありまして、また、フリーWi-Fiを経由したフィッシング詐欺など、セキュリティの問題で定期的な機器の更新やソフトウェアのバージョンアップをしなくてはなりません。こうしたこともありまして、コンビニ大手のセブン-イレブンのWi-Fiサービス、セブンスポットもサービスの提供を終了いたしております。

本市におきましても、設置、更新には多額の経費もかかることから、利用状況と費用対効果を検討した上で、K a g a F r e e W i - F i については今年度より残念ながら廃止をいたしました。

しかしながら、議員が御提案されますように、SNSを活用して地域の魅力を広く発信し、たくさんの人に知ってもらうことで地域のにぎわいにつなげることは、大変効果的で本当に意義のあることだと考えております。

現在、加賀市観光情報センターでは、夏をテーマに、インスタグラムを使ったフォトコンテストを実施しております、加賀市の様々な魅力を、SNSを活用して発信する取組を進めております。多くの方に投稿いただきたいと思っております、議員をはじめとした中学生の皆様にもぜひ投稿いただきたいと考えております。

今後も、インターネット通信の発達・普及動向を注視して、快適な観光地づくりに努めてまいりたいと考えております。いずれは、今のインターネットを超えるインターネットの時代がまた来るといふふうに我々も信じておりますので、ぜひそのことも常に頭に入れていただいて、何かまたいい提案がありましたらいただければと思います。ありがとうございました。

○議長（西 穂菜実君） 佐藤千聖君。

○佐藤千聖君 以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（西 穂菜実君） 佐藤千聖君の質問及び答弁は終わりました。

寺前歩里君。

○寺前歩里君 錦城中学校2年、寺前歩里です。

若者向けの施設を増やせるかについて質問します。

現在の加賀市は、どんどん若者が減少しています。そこで、若者向けの施設が増えれば、加賀市にとどまってくれる人が増え、加賀市の発展にもつながり、加賀市を元気にすることができるのではないのでしょうか。

加賀市の現状は、図書館などの高齢者がゆっくりできる場所や公園などの小さな子向けの施設が多いです。そして、若者向けの施設が少ないことも、若者が減っていくことにつながると考えました。

そこで、カフェや小松イオンなどの場所があるとよいのではないのでしょうか。カフェは、おしゃれで魅力的なだけでなく写真映えもするので、若者からの人気が高まると思います。

次に、小松イオンのような場所についてです。小松イオンのような、中に飲食店や本屋などがある店が加賀市にもあるとよいなと思います。現段階でも小松イオン自体はありますが、移動時間がかかってしまいます。だから今の加賀市に必要なだと考えます。

ですが、このように大きめの建物を増やすとなると、場所に費用、人手もかかるので、すぐには難しいことは分かります。ですが、時間がかかったとしても、このような場所を増やしていくことが、元気な加賀市という姿につながると思います。当局の所見をお聞かせください。

○議長（西 穂菜実君） 宮元市長。

○宮元市長 寺前議員の質問にお答えしたいと思います。

若者向けの施設を増やすことについてであります。

若者が加賀市に魅力を感じ長く住み続けたいと思えるような環境を整備することは、市の持続的な発展にとりまして大変不可欠であります。若者が日常的に利用し交流できる魅力的な場所を創設していく必要があると考えております。

そこで現在、市では、2029年の春を目標に、加賀温泉駅南側に未来型商業エリアの創設を進めております。これは単なる商業施設の集積にとどまることなく、新しい人の流れを創出し、加賀市全体の魅力を高めることを目的といたしております。

御指摘のとおり、大規模な施設の建設には、費用や時間、人材が必要となるため、市が直接建設、投資をするのではなくて、こうした場所や施設の誘致について、民間の投資を前提とした取組を推進してございまして、若者が集い楽しめる空間の創出を目指しております。

若者が加賀市にとどまり将来の担い手となってくれることは、市の活性化に不可欠な要素であります。長期的な視点に立てば、若者に向けた投資は大変有意義なものであると考えております。

市といたしましては、現在計画をしております未来型商業エリアの創設を核としながら、民間活力を最大限に生かしまして、若者が魅力とを感じる環境整備を進めるとともに、若者の皆様からの御意見を真摯に受け止め、加賀市の理想の姿の実現に向けて今後も検討を進めて

まいりたいと考えております。

今ほど申し上げた未来型商業エリアですが、地元の方、近隣の方の誘客はもちろんですが、いわゆるインバウンド、海外の方々の誘客も大きな目標の1つに掲げているということでもありますので、それ以外に、こういう提案が、おもしろいというものがありましたら、寺前議員からぜひまた御提案をいただければというふうに思っております。ありがとうございました。

○議長（西 穂菜実君） 寺前歩里君。

○寺前歩里君 新しい観光資源「食べる九谷焼」で加賀市を発展させようについて質問します。

加賀市には、山中温泉や九谷焼などの観光地域や観光資源が数多くあります。それは、加賀市が発展する中でとても重要な強みだと思います。そこで、新しい観光地域や新しい観光資源が生まれたら、話題にもなり、加賀市の発展につながると考えます。でも、全く新しいものを生み出すのは難しいので、今既にあるものとの組み合わせがよいのではないかと思います。

そこで思いついたのは、九谷焼をお菓子にしてみるというものです。九谷焼は、美しく、歴史もあります。そんな九谷焼をお菓子にしたら、ほかの地域の人が食べに来てくれるかもしれません。そして、そんな九谷焼をお菓子系のものにして、和風のお菓子ならあんこを使ったものを、洋風のお菓子ならクッキーなどといったものにすれば、ほかの地域の人には食べに来てくれるかもしれません。

和風と洋風のどちらも実行可能なのが、この案の強みです。そして、食べ物の九谷焼が有名になったら、あまり九谷焼に詳しくない人も九谷焼に興味を持ち、加賀市に観光に来てくれるのではないかと考えますが、当局の所見をお聞かせください。

○議長（西 穂菜実君） 宮元市長。

○宮元市長 新しい観光資源「食べる九谷焼」で加賀市を発展させよう、大変おもしろい提案だと思います。

地域産業を発展させるために、資源を有効に活用しながら新しいものを生み出し、地域の内外に発信することにより、国内はもとよりですが、海外からも注目されるように取り組むことが大変重要であると思っております。

一般に菓子製品の開発というのは、市場の調査や商品コンセプトの検討に始まりまして、素材や味、食感、形、そして見た目などの商品デザインの検討や試作を経て、安全性試験をクリアして消費者に届けられることとなります。

加賀市にゆかりの深い九谷焼をテーマとした菓子製品を開発することは、話題性が高く、加賀市の産業や文化を広くPRすることにもつながるものであります。また、製品がきっかけとして、地域の振興にも寄与する可能性もあるわけであります。

市といたしましては、市内の菓子製造に関わる皆様から、地域の特色を捉えた新しいお菓子が開発されることを大変期待しているところであります。

市では、このような開発等の取組を支援するため、お菓子などの加工食品や伝統的工芸品など、新しい商品の開発、試作、研究などに取り組む方を支援いたします。新商品開発助成事業などを毎年実施することで、開発を推進いたしております。

議員におかれましても、将来、加賀市の観光資源を活用した事業に関わる機会がありましたら、このような支援制度を活用いただきまして、アイデアを実現し、地域産業の発展に取り組んでいただければと考えております。今後も、地域資源を活用した新しい商品の開発が盛んに行われますように取り組んでまいりたいと考えております。

寺前議員の発想は大変おもしろい発想であります。最近では3Dプリンターの技術が発達をしているので、非常におもしろい作品がもしかするとできるかもしれないというふうに思いますので、ぜひ寺前議員独自で一度試作をしていただければと思います。ありがとうございました。

○議長（西 穂菜実君） 寺前歩里君。

○寺前歩里君 以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（西 穂菜実君） 寺前歩里君の質問及び答弁は終わりました。

山下谷 空君から、質問に際し資料の持込み及び配付の要請がありましたので、議長においてこれを許可いたします。

山下谷 空君。

○山下谷 空君 錦城中学校1年、山下谷 空です。

通学路の危険性について質問します。

資料1を開いてください。

私の通学路にある株式会社正和さんの会社に隣接する上河崎町の市道C第434号線の道路は、肩幅ぐらいしかない細い路側帯があり、車が結構通ります。

資料1を閉じてください。

そして、冬には除雪車が通り、雪が路側帯によけられるので、完全に路側帯がなくなります。そして、その寒い時期は道が凍り、車が思うように動かないので、もしかしたら歩行者をひいてしまうかもしれないという非常に危険な状態になります。道路自体が細くて狭いので、完全に解決することはとても難しいと思いますが、市の考えをお聞かせください。

○議長（西 穂菜実君） 宮元市長。

○宮元市長 山下谷議員の通学路の危険性についてお答えしたいと思います。

議員の御質問の上河崎町の市道C第434号線につきましては、町内の幹線道路でありまして、上河崎神社から上河崎橋にかけて、神社側には歩道があるものの、そのほかは、議員御指摘のとおり路肩が狭く、通学時の児童生徒の安全確保が課題であると認識しております。また、冬季の路面凍結や、車道を除雪した雪により、車両と歩行者の安全確保が難しい環境であることも認識いたしております。

安全確保には歩道の整備が最も効果的であります。道路沿いには既存の建物が多く、用

地の確保や建物の移転補償など多くの費用と整備期間が必要であります。そのため、即効性のある安全対策といたしまして、大聖寺警察署、学校関係者や市の関係課などで構成をいたしております加賀市通学路交通安全推進協議会での検討結果を地域の皆様に御確認いただきまして、路側帯を緑色に着色し、視覚的に通学路であることを表現することで、通行車両の速度を抑制することや歩行者との接触事故を防ぐことを目的とした、いわゆるグリーンベルトを昨年度に上河崎神社から町中心部にかけて設置したところであります。

冬期間については、注意喚起の看板設置や、学校、地域と連携した見守り活動の強化など、可能な範囲で安全対策を進めていきたいというふうに考えております。

今後は、グリーンベルトの延伸や歩道整備につきましても引き続き検討していきたいというふうに思っております。皆様方の安全確保というのは市の極めて重要な問題なので、これからも引き続き真剣に取り組んでいきたいというふうに思います。

○議長（西 穂菜実君） 山下谷 空君。

○山下谷 空君 加賀市民全員に100万円を配ることは可能か質問します。

現在、日本政府が国民に2万円の給付金を配るということが検討されているということですが、2万円では足りないという声をよく耳にします。

そこで、2万円の50倍の100万円を配るということを提案します。もし市民みんなに100万円を配ることが実現すれば、物価高対策にもなり、みんなが好きなものを買えるため、もっと加賀市に住み続けたいという気持ちになると思います。この提案について、市の考えを聞かせてください。また、もしも1人100万円が難しいのであれば、ほかの物価高対策の市の取組をお示しくください。

○議長（西 穂菜実君） 宮元市長。

○宮元市長 加賀市民全員に100万円を配ると、大変夢のある御提案であります。

市民の皆様のご生活支援は大変重要な課題であります。市民全員に一律100万円の支給というのは、現在の市の財政規模や財政の状況から考えて実現不可能であるとの答弁にならざるを得ないわけですね。

その理由としては、本市の人口は約6万人であります。市民全員に100万円を支給するとなると、単純計算で600億円が必要だということでもあります。令和7年度の加賀市の一般会計当初予算は約417億円ですので、この予算規模と比較しても、市の年間予算をはるかに上回る額であり、多額の地方債等の発行やいわゆる借金によって賄うことは、将来世代への大きな負担となりまして、将来にわたって市の財政計画を考えると現実的ではないかなというふうに考えております。

財源を確保するためには、大幅な市税の増税や公共サービスの削減、市の資産の売却が考えられますが、いずれも市民生活に大きな影響を与えるわけでもあります。持続可能な市政運営というのはなかなか難しいかなというふうに思います。

その他の物価高対策としては、市ではこれまでも、保育料や学校給食費の完全無償化、ま

た、子供医療費の助成費の対象年齢の拡大など、他の自治体に先駆けまして独自の経済的負担の軽減策を実施してまいりました。

今後は、国の物価高騰への対応に常に注目をいたしまして、エネルギー価格の対策や低所得者への支援など、本市の状況に応じた形で市民の生活に還元できるように努めてまいります。

市といたしましても、もっと加賀市に住み続けたいなと思ってもらえるように、限られた財源の中で、真に支援を必要とされている方々へのきめ細かな支援策や、市民生活の質の向上に資する施策、そして、将来の市の発展に資する取組を検討、実施していきたいと思っております。

山下谷議員が心配されておられることはよく分かります。市といたしましては、市もできるだけの努力をしながら、皆様方に御心配をかけないように努力していきたいと思っております。

○議長（西 穂菜実君） 山下谷 空君。

○山下谷 空君 以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（西 穂菜実君） 山下谷 空君の質問及び答弁は終わりました。

伊勢谷柚葉君。

○伊勢谷柚葉君 片山津中学校3年、伊勢谷柚葉です。

加賀市へ大学をについて質問します。

私たちの生徒会執行部で、将来、進学や就職で加賀市を出たいかというテーマで話し合いをすると、多くの方が、大学進学を機に加賀市を出たいと答えました。理由として、加賀市には大学がないから、都会のほうが就職の選択肢が多いからという声がありました。中には、東京の大学に行ったまま加賀市に戻ってこないと思う人もいました。このままだと若い世代がどんどん加賀市を離れてしまうのではないかと心配になりました。

そこで私たちは、加賀市に大学があればどうかと考えました。もし加賀市に大学ができれば、地元に残る選択肢が増え、進学のための引っ越しが減るかもしれません。さらに、加賀市の魅力的な環境や温泉、自然を生かした特色ある大学であれば、ほかの地域から学生が来てくれる可能性もあります。

大学の内容としては、ほかの大学と同じでは意味がありません。加賀市は教育においてICTに力を入れていることから、その特徴を生かし、ICTに特化した学部を持つ大学があれば、加賀市らしい魅力ある進学先になるのではないのでしょうか。さらには、農業や観光といった地域資源があるので、それらとICTを組み合わせる学部があれば、地域の未来に貢献する人材が育つと思います。例えばドローンを使った農業技術や観光PRのための動画作成などが学べるとおもしろいのではないかと思います。

また、場所としては、交通の便を考え、加賀温泉駅の近くがふさわしいと考えています。駅から近ければ、市内外からの通学がしやすく、大学周辺のにぎわいも期待できます。

つきましては、以下の点についてお伺いします。

I C Tと農業の両方を学べるような、地域に根差した大学設立についてどのように考えていますか。

加賀温泉駅周辺に大学を設置することについて、市としてどのように考えていますか。

○議長（西 穂菜実君） 宮元市長。

○宮元市長 伊勢谷議員の御質問にお答えしたいと思います。

若者の市外流出を防いで加賀市に活気をもたらすための教育機関の拡充、特に大学立地の御提案は、まさに市の喫緊の課題と合致するものでありまして、若者の皆様が地元で学んで働き、安心して暮らせる環境を整備することは、加賀市の持続的な発展に大変不可欠であると考えております。

そのため、市ではこれまでも、高校の魅力向上、そしてU・Iターンなどの地元就職支援や地域企業との連携の強化、将来を見据えた新たな産業創出など、様々な取組を進めてまいりました。

加賀市に大学をつくるという御提案につきましては、市が独自に設置するということは大変難しいことではありますが、大学立地は、若者の市外流出を抑制し、市への新しい人の流れを生み出す上で有効な手段であると考えております。市といたしましても、高等教育機関の拡充について積極的に取り組みたいというふうに思っております。

昨年10月には、金沢大学の融合学域のサテライトが、大聖寺のかが交流プラザさくらの3階にある加賀市イノベーションセンターの中に開設をされまして、加賀市の地域課題の解決に向けた研究や人材育成に取り組んでいるところであります。また、令和9年度には、宝塚医療大学の観光学部が大聖寺地区に開設される予定であります。2学年、3学年、4学年が加賀市で開設をするということでもあります。これによって、観光分野に特化した観光人材の育成と地域観光の活性化に貢献できるというふうに考えております。

これらの大学の誘致や連携を通じまして、加賀市における高等教育機関の選択肢を増やして、若者の学びの機会を創出していきたいと考えております。加賀市が力を入れておりますI C T分野に特化した大学の設立という御提案は、市の強みを最大限に生かして、地域産業の発展にも直結するものであります。金沢大学や宝塚医療大学とも連携しながら、大学に限らず、関連する企業とも連携し、先端技術を活用する人材の育成を積極的に支援してまいりたいと考えております。

また、加賀温泉駅周辺に大学を設置するという御提案ではありますが、今後、大学進出の話があった際には、加賀温泉駅周辺についても候補地の1つとして検討していきたいというふうに考えております。

大学とは形態が違ってくるかもしれませんが、今現在、加賀市はマイクロソフト社とA I人材の育成のための取組を進めております。これは、A I自身があらゆる産業分野に対して大きな影響を与えて、産業構造を変えていく核になるわけなので、伊勢谷議員も御承知のとおり、A Iの進化は今、異常なスピードで進んでいます。そういう組織と連動しながら

ら、仮に大学という枠組みがなくても人材の育成は可能ではないかというふうに考えておりますので、加賀市が、空飛ぶ産業も含めて先進的な取組を今進めておりますので、そういうところにも夢と希望を持って携わっていただけるような雇用をぜひつくり出していきたいなというふうに思っています。

ちょっと質問からそれるかもしれませんが、JAXA、宇宙航空研究開発機構と、いわゆる日本のNASAみたいな機関がある、御存じだと思いますけれども、その、JAXAが認定したスタートアップで、emblem（エンブレム）という株式会社があるんです。JAXAが認定するスタートアップというのはそんなに多くないんですが、そのemblem株式会社が今現在、加賀市内で、いわゆる、伊勢谷議員は恐らく御覧になったと思いますが、「アイアンマン」という映画知らないですか。

（「知っています」と言う者あり）

○宮元市長 知っているね。「アイアンマン」と同じようなロボットスーツを着た、空飛ぶロボットスーツを今、実は加賀市内で開発したんです。ヒト飛行という、いわゆる人が空を飛ぶためのエンジン開発を今、市内でやっています。そういう夢のある産業も加賀市に少しずつ芽生えつつありますので、ぜひそういうことにも注目しながら、大学に関する職場、未来の産業、そういうものにぜひ注目して関心を持っていただけたらうれしいなというふうに思います。

○議長（西 穂菜実君） 伊勢谷柚葉君。

○伊勢谷柚葉君 以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（西 穂菜実君） 伊勢谷柚葉君の質問及び答弁は終わりました。

西川愛莉君。

○西川愛莉君 橋立海青学園8年、西川愛莉です。

魚の放流授業について質問します。

私たちの学校では、小学校3年生がヒラメの放流体験をしています。魚が成長する姿を見るいい機会です。できれば食べることでみんなで体験することによって、食育として命の尊さも学べるいい機会になるのではないのでしょうか。自然環境への関心を高めるいい機会だと私は思います。

橋立海青学園は、海の近くに立地しており、海の生き物について関心の高い地域です。私たちはコロナ禍で体験できませんでしたが、私たちの学年でもヒラメの放流がしたかったという声を今でもよく聞きます。この魚の放流授業については、今後も継続できるといいと思っています。市の考えをお聞かせください。

○議長（西 穂菜実君） 松本教育長。

○松本教育長 ヒラメ稚魚放流体験についてお答えします。

本取組は、子供たちの自然環境への関心を高めることや、ふるさとの特色に触れ、大切にすることを学ぶことを目的として、石川県漁業協同組合加賀支所様が実施するものです。こ

の取組は、西川議員がおっしゃるとおり、子供たちにとってとても貴重な体験になっていると考えており、今後とも県漁業協同組合において必要な取組が継続できるよう、また、年間の授業などを通じてその学びが一層深まるよう、教育委員会としても学校に対し必要な支援を行ってまいります。

議員の自然環境や食育に対する思いや考えは、県漁業協同組合にも伝えさせていただければと思います。また、議員におかれては、ぜひ、ヒラメの放流体験に限らず、より多くの人々が自然環境に関心を持ち、食育や命の尊さを考えるための企画を御提案いただければ幸いです。例えば、この夏、片山津中学校の生徒は、大阪・関西万博で、海洋ごみをキーホルダーにする取組をワークショップで発表します。

このような企画も参考にしながら、自然環境や食育に関する思いを同じくする方々が、地域や学校、また年代を超えて協働し、市の未来を支える活動が活性化していくということを教育委員会としても期待したいと思います。

○議長（西 穂菜実君） 西川愛莉君。

○西川愛莉君 ドローンのイベントについて質問します。

昨年、私たちの学校で、プログラミング学習も兼ねてドローンのワークショップをしました。それは、プログラミング能力を高め、ドローンのことについて関心を高めるいい機会になりました。

本校は、どの地区からでも来ることができる学校です。橋立海青学園の魅力を伝えることで、橋立地区以外から本校に入学や転校したいと思える学校になると思います。そのために、前回、加賀市のワークショップで行ったように、私たちがプログラミングしたデザインを、株式会社ドローン・ジャパンの方に依頼し、橋立海青学園の魅力が伝わるようなドローンショーを橋立マリンビーチで開催したいと思います。橋立海青学園の魅力の1つであるカニ給食などをドローンショーで見せられるとよいのではないのでしょうか。市の考えをお聞かせください。

○議長（西 穂菜実君） 宮元市長。

○宮元市長 ドローンのイベントについて、西川議員の御質問にお答えします。

昨年度は、人材育成を目的として、市内の中学生及び高校生を対象に、ドローンの組み立てやプログラミングを学ぶドローンショーワークショップもこの橋立中学校の体育館で実施しました。今年度から開校いたしました橋立海青学園の令和8年度の生徒募集は、1学年30名程度を上限に、スクールバスを運行することとして、今月1日から開始いたしておりますが、本校においては、校区内の児童生徒を募集することが可能な学校であることから、プロモーションの強化が重要であると考えております。

今後のプロモーションの方法の一つとして、議員御提案のドローンショーの活用及びオリジナルデザインも生徒自らで作成することは、生徒募集に役立つものと思います。

橋立の地域全体にとりましても、新しい学校の発信力を生かすことで、地域の魅力を効果

的に伝えていくというような考え方は大変重要だと思います。費用対効果や実施時期、実施場所などの観点を踏まえまして、有効性をぜひ研究したいと考えています。

一方で、ドローンを活用した授業に期待する点は、中学生や高校生にとりまして、継続的な学びの機会が得られることであります。ドローンの機体の組み立てや、自動で飛行させる技術は、数学や理科で学ぶことの応用でありまして、また、複数台のドローンを飛行させて、空中に立体的なデザインを描いたり、光の原理を応用して色鮮やかな空間アートをつくり出したりすることは想像力が必要であります。科学技術と創造性の両面が育まれることで、これからのAI時代を生き抜く力が養われるのではないかと考えております。

市としては、このような将来につなげられるような産業の創出と人材育成を今現在進めようと考えているところであります。

西川議員は御存じないと思いますが、加賀市内に今、ドローン特区という特別なエリアを設けています。九谷ダムの周辺を特別エリアとしておりますが、世界的なドローンのソフトウェアの集団であります、アルジュパイロットというエンジニア集団があるんですね。その集団が加賀市内でドローンの開発をしたいということで、今、これから様々な取組を進めていこうということでもあります。そのアルジュパイロットというのは、オープンソースで世界の標準ソフトなんですね、制御技術の。そういう非常に優れた集団が加賀市との関わりを今現在持っていますので、ぜひそういう方々の取組も皆さん方の将来の夢として注視して見守っていただけると非常におもしろいかなと、未来の産業の1つとなると考えておりますので、ぜひひとつそのことも踏まえて、いろいろな提案をまたしていただければと思います。

○議長（西 穂菜実君） 西川愛莉君。

○西川愛莉君 以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（西 穂菜実君） 西川愛莉君の質問及び答弁は終わりました。

この際、暫時休憩いたします。

再開は、午後2時5分を予定しております。

午後1時54分休憩

午後2時05分再開

○議長（西 穂菜実君） 会議を再開し、休憩前の議事を続けます。

中島実莉君。

○中島実莉君 橋立海青学園8年、中島実莉です。

猿の出没について質問します。

私たち橋立海青学園の児童生徒が住む橋立地区では、毎年秋や冬になると、何度か熊などの動物の出没が相次ぎ、今年の5月には学校近くのグラウンドに猿が出没しました。そのグラウンドでは、学童クラブの児童たちが放課後に遊んでいたり、後期課程の陸上部が毎日練習に励んでいます。また、体育の授業でも使うグラウンドです。そのため、もし頻りに猿が出没してしまうと、部活動や授業に支障をきたしたり、猿に傷つけられたりする事故が起き

かねません。熊やイノシシについて対策をしているのは知っていますが、猿についても対策していただけないでしょうか。市の考えをお聞かせください。

○議長（西 穂菜実君） 宮元市長。

○宮元市長 猿の出没対策についてお答えしたいと思います。

初めに、本市での猿の出没状況についてであります。本市におきましては、猿の群れで生息しているといった状況は、確認はされておられません。が、例年、市街地周辺で一、二頭での目撃情報が10件ほど寄せられております。橋立地区におきましては、今年度は5月の学校グラウンドでの出没以外にも、5月と6月に各1件の目撃情報が寄せられております。

こうした猿の出没は、熊やイノシシと比べて件数が少ないこともありまして、その対策についてはあまり知られていないのかもしれませんが、実は猿につきましても市で対策を行っているところであります。具体的な対策としては、市街地や住宅の敷地等にとどまり続けるなどして周辺住民に被害が及ぶ可能性がある場合におきましては、大きな音がする動物駆逐用煙火というものを使いまして、追い払いなどの対応を行うことといたしております。

なお、猿は、鳥獣保護管理法におきまして、狩猟の対象となる狩猟鳥獣に指定をされていないので、原則として捕獲はできませんが、深刻な被害があるなどやむを得ない場合は、捕獲し山に放すなどの対策を行っております。そのため、猿を目撃された場合や猿による農作物等への被害が発生した場合には、学校や保護者を通じて市の鳥獣対策室へ御連絡をお願いしたいと思っております。

猿の中でも、特に子猿に関しては、見た目がかわいらしいこともありまして、つい近づいてしまうこともあるかもしれませんが、うかつに近づくとかみつかれる可能性がありますので、絶対に近づかないようお願いをしたいと思います。また、猿と出会った際に大きな声を出したり物を投げつけたりすると、興奮して襲ってくる可能性がありますし、反対に餌を与えると、人を怖がらなくなってしまう可能性がありますので、絶対にしないようお願いをしたいと思いますというふうに思います。

このように市でも対策を行っているところでありますが、中学生の皆さんには、猿などの動物には十分御注意をいただき、中島議員も関心が強いと思っておりますけれども、危険なことはぜひ避けていただきたいなと思っております。

○議長（西 穂菜実君） 中島実莉君。

○中島実莉君 橋立自然公園の利用について質問します。

橋立地区にある橋立自然公園の運動広場は、ほかの地域の方も気軽に訪れて遊ぶことができる自然豊かな公園です。その橋立自然公園の広場について提案します。

最近、橋立自然公園運動広場では、高齢者の方々がグラウンドゴルフを楽しんでいます。しかし、ゴルフで広場を利用しているときは、子供たちやほかの利用者たちが自由に利用できないということが起きています。橋立自然公園の広場の横に、パークゴルフやマレットゴルフができるグリーンパークがあるのですが、そこでは75歳以上の個人利用料金は250円です。

それとは別にグラウンドゴルフができる広場の利用にも料金が発生するのですが、係員がいないため個人料金を取れていなかったり、貸切りで利用する団体に参加して、料金を払わずに利用できてしまう現状があります。このことが、高齢者のグラウンドゴルフ利用により、ほかの利用者が使用できないことにつながっていると考えます。

そこで私たちは、橋立自然公園運動広場をグラウンドゴルフで利用する際、個人料金をしっかりと取れる仕組みをつくったり、広場を使える時間帯を中学生や高齢者で区分するのがよいと思います。そうすることで、どの利用者も広場を利用でき、加賀市のほかの地域の方も橋立自然公園を利用することにつながると思います。市の考えをお聞かせください。

○議長（西 穂菜実君） 松本教育長。

○松本教育長 橋立自然公園運動広場の利用についてお答えいたします。

現在、橋立自然公園運動広場は、高齢者のグラウンドゴルフや少年サッカーなど幅広い世代に御利用いただいています。大会の開催等で運動広場全体が占有されることはありますが、それ以外の時間は個人利用をいただいています。

グラウンドゴルフの個人利用時に子供たちやほかの利用者が自由に運動広場を利用できないとの御指摘については、グラウンドゴルフ協会に対し、個人利用の際は運動広場の半面のみを使用し、残りの半分はほかの利用者のために空けていただくよう依頼をしています。

しかし、中島議員の御指摘を踏まえ、改めて協会にこの点を遵守いただくよう、教育委員会から申入れをします。

個人料金の徴収の徹底については、広場に管理者は常駐していませんが、監視カメラにて使用状況を随時確認しています。不適切な利用が認められた場合については、管理者が現地に出向いて対応します。

また、御提案いただいた、中学生や高齢者など利用者の層によって広場を利用できる時間帯を区分することについては、グラウンドゴルフで利用されている方などの御意見も伺いながら今後検討を進めてまいります。

市としましては、橋立自然公園運動広場が、全ての利用者が気持ちよく利用でき、誰もが使いやすい広場となるよう、引き続き運営の改善に努めてまいります。

○議長（西 穂菜実君） 中島実莉君。

○中島実莉君 これで私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（西 穂菜実君） 中島実莉君の質問及び答弁は終わりました。

澤矢直都君。

○澤矢直都君 東和中学校3年、澤矢直都です。

加賀市エナジーフェスティバルの提案について質問します。

中学生にもなると、小学校の頃にあった音楽会や連合運動会などの大きなイベントがなく、あまりにぎわっていないと感じています。そして、ほかの学校の生徒と関わる機会がほとんどなくなりました。だから僕からは、加賀市合併20周年を記念して、加賀市の中学校が主体

となったお祭りを行うことを提案します。

僕が提案するイベントは、加賀市内の全中学校を巻き込み、スポーツ大会や文化発表を行う加賀市エナジーフェスティバルを開催し、そこに地域の屋台や出店も並べることで、加賀市全体を盛り上げることを目的としています。これにより、加賀市の中学生同士の交流を深めるとともに、市民全体が一体となって楽しむことができるイベントになると思います。

具体的には、次の4つの要素を取り入れた祭りを開催したいと考えています。

1つ目は、スポーツ大会です。運動会形式で各校の生徒が参加できる競技を行い、一般市民も参加できる競技をつくることで交流を促進させます。

2つ目は、文化発表会です。合唱やダンス、演劇など各校の特色を生かした文化活動を発表する場を提供します。

3つ目は、屋台などの出店です。地域の商店やボランティア団体が協力し、加賀市の特産品や食べ物を楽しむことができる屋台を設置することで、さらなるにぎわいを創出します。

4つ目は、地域住民の参加です。学校だけでなく地域の住民を巻き込んで、全市民が参加できるイベントにします。

僕は、加賀市内の中学生同士の交流を深めるだけでなく、加賀市全体がにぎわい、今よりもっともっと活気がある加賀市をつくるのが大切だと考えています。そのためにもエナフェスの開催をぜひ検討していただきたいです。加賀市エナジーフェスティバルの提案について、市の考えをお聞かせください。

○議長（西 穂菜実君） 松本教育長。

○松本教育長 加賀市エナジーフェスティバルの御提案についてお答えいたします。

スポーツや文化、地域の方々の力を通じて、御提案のように、加賀市全体がにぎわい、今よりもっともっと活気がある加賀市をつくる、このことは教育委員会としても非常に大切だと考えています。全く共感します。

そのため本市では、これまでも子供から大人、高齢者の方まで幅広い世代が参加できる様々なイベントを実施してきました。例えばスポーツの分野では、誰もが気軽に参加できる加賀温泉郷ウオークや、スポーツ協会が主催する市民スポーツ大会など多様な大会を開催しています。また、文化の分野では、美術や音楽に関係する各協会が主体となり、展覧会やコンサートを実施し、市民の皆さんに文化に触れる機会を提供しています。

また、中学生や小学生の方々が主役のイベントとしては、KAGA STEAM Presentationを毎年12月に開催しています。これは、御存じかもしれませんが、小中学生や高校生がグループで探求した課題について発表する場です。STEAMのAはアーツの頭文字であり、芸術などの文化的な要素を多く含んだものです。加えて、過去には民間企業と協力し、ドローンやVRの体験ブースなども設けたテクノロジーイベント、STEAM FES KAGAを開催しました。

澤矢議員御提案のエナジーフェスティバルについては、KAGA STEAM Presente

n t a t i o nの取組をさらに発展させ、より活発な学校間の交流や、民間企業や地域の方々など様々な大人との学び合いが生まれる、まさにエネルギーあふれる、エナフェスと呼ばれるようなイベントになるように検討していきたいと考えています。中学生の皆さんが活発に交流し、地域につながる機会を増やすために、ぜひ引き続き議員からの御意見もお寄せいただければ大変幸いです。

○議長（西 穂菜実君） 澤矢直都君。

○澤矢直都君 松本教育長、宮元市長、ぜひエナフェス実施の御検討をよろしくお願いします。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（西 穂菜実君） 澤矢直都君の質問及び答弁は終わりました。

掛川 柊君。

○掛川 柊君 山中中学校3年、掛川 柊です。

空き地の駐車場利用について質問します。

毎年、山中温泉ではこいこい祭や山中漆器祭が行われていますが、駐車場がなくてうろうろしている観光客の姿を多く見かけます。個人所有の空き地などを駐車場として市から貸出しの依頼をしてもらい、観光客の方々にゆっくりにお祭りを楽しんでもらいたいと思います。来年も来たいと思える祭りにすることで、観光客も増え、働く人も増え、地域の活性化につながると思います。個人所有の空き地などを駐車場として利用することについて、市の考えはいかがですか。

○議長（西 穂菜実君） 宮元市長。

○宮元市長 掛川議員の空き地の駐車場利用についてお答えしたいと思います。

山中温泉をはじめとする加賀市内の温泉地には、多くの観光客の方が滞在されまして、自家用車、観光バスで来訪される方もたくさんおられるわけでありまして。そのような中で、温泉地における駐車場の確保は課題の1つであると考えております。今のところ山中温泉では、旧山中温泉支所跡地を観光客用の駐車場として活用しておりまして、通常時における駐車スペースは確保できていると考えております。

しかしながら、掛川議員の御質問のとおり、山中漆器祭やこいこい祭など、市内外から多くの方が来訪される大規模なイベントの際には駐車場が不足することは認識をいたしております。

そのため市では、イベントの主催者に対しまして、中心部から少し離れてはおりますが、山中温泉ぬくもり診療所や山中健民体育館などの公共施設をお貸しし、主催者はその駐車場からの無料シャトルバスを運行して、来訪者の利便性を極力損なうことがないよう努力をされております。その情報は様々な方法で周知をしていただいておりますが、情報が届かず、会場周辺などお越しになられている状況が生じているものと思われまして。

その解決策として、御提案のようにイベント会場の近くに多くの駐車場を提供できることはよい方法だとは思いますが、小規模の駐車スペースに多くの車が来ることでの混雑が予想

されますので、主催者である山中温泉の地元の皆様とも相談しながら、よりよい方法をこれからも研究していきたいというふうに考えております。

○議長（西 穂菜実君） 掛川 柊君。

○掛川 柊君 ゆけむり健康村駐車場の有効活用について質問します。

以前、僕は、ゆけむり健康村の風呂をよく利用していましたが、休業してしまい悲しいです。トイレや電気自動車の充電設備が整っている駐車場をもっと利用者にPRすることで、県外からの旅行者を呼び込めるのではないかと思います。また、災害時の避難場所としても利用できて、多くの役割を果たせると思います。こんな設備がある場所を放置しているのはもったいないと思いますが、駐車場だけでももっと有効活用できないでしょうか。市の考えをお聞かせください。

○議長（西 穂菜実君） 宮元市長。

○宮元市長 山中温泉ゆけむり健康村の駐車場の有効活用についてお答えします。

山中温泉ゆけむり健康村は、道の駅、ゆーゆー館、すこやかホール、テニスコートで構成する複合施設として平成2年12月にオープンをした施設であります。オープンから多くの市民に利用されてまいりましたが、近隣の類似施設の増加や、またレジャーの多様化などによりまして利用者数が減少傾向となり、また、設置から32年が経過し、施設・設備の老朽化が著しいことから、駐車場と公衆用トイレ、電気自動車用急速充電設備の道の駅の機能を除いて、令和5年4月から当分の間、休業いたしております。

また、建物は使用できませんが、駐車場は、災害発生時には安全を確保する場所として指定緊急避難場所になっております。

現在、市では、山中温泉ゆけむり健康村全体の新しい施設の活用について、持続可能なにぎわい創出の場とすることを目的として、7月から9月までの間に、民間の自由な発想や発案により新しいビジネスモデルの導入を期待いたしてありまして、企画提案の募集を現在行っております。掛川議員も有効活用について新しいよい提案がありましたらぜひ御提案いただきたいというふうに思って、期待いたしてあります。

○議長（西 穂菜実君） 掛川 柊君。

○掛川 柊君 以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（西 穂菜実君） 掛川 柊君の質問及び答弁は終わりました。

南 優駿君。

○南 優駿君 片山津中学3年、南 優駿です。

未来型商業エリアの施設について質問します。

現在、加賀市では、加賀温泉駅前に未来型商業エリアの計画が進められていると聞いています。僕は、このエリアを単なるショッピングの場としてではなく、若い世代が主役となって活躍できる場として設計すれば、加賀市全体の活性化にもつながると考えています。

具体的には、まず、若者向けの店舗、例えば最新のファッションや雑貨、eスポーツ体験

ができるスペース、地元の学生が運営に関わるカフェなどを取り入れることによって、地域の若者は、行ってみたい、参加してみたいと感じる場所になるのではないのでしょうか。

さらに、将来的に加賀市に大学が設立された場合、その近隣に学生や若者向けのオフィスやコワーキングスペース、ICTに特化したスタートアップ支援施設などを整備することで、若者が自分のアイデアやスキルを生かして起業する拠点としての機能を果たすことができます。こうした場には、例えば3Dプリンターや動画編集ブース、高速通信環境などがあると、加賀にしながら全国とつながった仕事が可能になります。

また、このエリアにコンサートホールやイベントスペースを併設し、市内外の学生が文化活動や発表の場として使えるようにすれば、芸術や音楽を学ぶ若者の成長の場にもなります。地域の人々が音楽会や演劇を気軽に楽しめるようになることで、まちの文化的魅力が高まります。

このように未来型商業エリアを、学び、働き、楽しむが融合した総合型施設として整備すれば、加賀市は、若者にとって住み続けたい、帰ってきたいと思えるまちになるのではないかと考えています。

つきましては、以下の点についてお伺いします。

加賀市で計画されている未来型商業エリアに若者向けの店舗やeスポーツなどの体験型施設を取り入れる予定はありますか。

大学設立や若者の起業支援と連動したオフィス、コワーキングスペースの整備について、市としてどのように考えていますか。

学生や市民が利用できるコンサートホールなどを含めた総合型施設にすることについて、市の方針や可能性をお聞かせください。

○議長（西 穂菜実君） 宮元市長。

○宮元市長 南議員の未来型商業エリアの施設についてお答えしたいと思います。

市では、市民の皆さんからの市内の魅力的な店舗がないという声にお応えするために、加賀温泉駅周辺におきまして、先端技術を活用した新しいサービスや体験ができ、また、若者やファミリー層などの市民の方々をはじめ、観光客など加賀市を訪れる方々にも楽しく時間を過ごせ、そしてそこへ目的として行きたくなるような、にぎわいのある未来型商業エリアの創造を目指しております。

南議員の御提案につきましては、非常に重要な視点が大変多いなというふうに感じております。最新のファッションや雑貨、eスポーツ体験、学生が運営に関わるカフェなどの若者向けの店舗は、若者にとって魅力的な居場所になるだけではなくて、地域全体のにぎわいにもつながると考えております。大学やコワーキングスペース、スタートアップ支援施設等の整備や、コンサートホール、イベントスペース等の文化施設の併設の御提案につきましては、まさに当市が掲げる人材育成の観点からも、学生や若手人材が地元で学び、働き、そして挑戦ができる環境づくりになるものと思います。

現在、民間事業者が進めております未来型商業エリアの開発計画の内容としましては、日常生活の利便性の高い総合スーパーやホームセンターに加え、衣料品や日用雑貨だけではなくて、伝統工芸や家電、家具など、インバウンドも意識した、差別化したアウトレットなどの施設、公共性の高い多目的施設などが一体となりました複合型の商業施設と、それからビジネスホテルの誘致が予定をされております。2029年の春に開業を目指しております。

現時点では、複合商業施設内に具体的にどのような機能や店舗を整備するかなどの詳細はまだ明らかになっておりませんが、その中には、議員御提案の若者向けの店舗や体験型施設も当然含まれるものと考えております。市といたしましても、今の御提案を取り入れていただけるように我々からも要望してまいりたいというふうに考えております。

それから、大学につきましては、先ほど伊勢谷議員にお答えしたとおりであります。昨年10月に金沢大学の融合学域のサテライトが加賀市イノベーションセンター内に開設されておりました。また、令和9年度には宝塚医療大学観光学部が大聖寺地区に開設される予定であります。起業支援と連動したオフィス、コワーキングスペースにつきましては、加賀市イノベーションセンターや大聖寺駅に整備をしております。また、各種支援施策によって、加賀市における起業をフルパッケージで支援して、世界で活躍できる若手人材の創出を図っております。

最後、お話のありました、コンサートホールやイベントスペースなどを備えた複合型施設にすることにつきましては、市民の利便性の向上につながると考えられますので、事業者とも協議してまいりたいと考えております。

未来型商業エリアが、地域全体の活性化と文化創造の場として、単なる買い物の場だけではなくて、学び、働き、楽しむ場へと発展し、世代を超えて親しまれるエリアとして、市内外、そして県外からも選ばれる魅力ある施設になるように取り組んでいきたいというふうに考えております。

今日、これは2人目の質問になります。それだけ大きな期待が中学生の皆様方の間でもあるのかなというふうに思っております。様々な新しいテクノロジーを使ったスポーツも、これから恐らくどんどんこの短い期間に急速にいろいろと出てくると思います。そのことも踏まえて、南議員からは、こういうのがおもしろいぞというのがありましたら、ぜひ御提案をいただければありがたいなというふうに思っております。

○議長（西 穂菜実君） 南 優駿君。

○南 優駿君 以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（西 穂菜実君） 南 優駿君の質問及び答弁は終わりました。

木下珀人君。

○木下珀人君 本日最後の質問となります。よろしく申し上げます。

路線バスの本数について質問します。

山中地区をはじめ、市内での路線バスの本数が少ないと思います。バスの本数が増えれば、

学生たちが通学やほかのまちに遊びに行く際、余裕を持ってバスに乗ることができます。お年寄りの人たちにとっては、自分で車の運転ができない人が、病院の行き帰りだったり、重い荷物の運搬だったりするときにバスを利用したいと考えているので、幅広い年齢層から望まれている課題だと思います。

バスの本数を増やすことは、運転手さんの労働時間が増え、バスの燃料などの料金の問題が出てきます。そこで、バスの利用の少ない時間帯を調べ、その時間帯のバスを減らし、夕方から夜にかけてのバスの本数を増やすということは可能でしょうか。市の考えをお聞かせください。

○議長（西 穂菜実君） 宮元市長。

○宮元市長 木下議員の路線バスの本数についてお答えしたいと思います。

学生の通学や余暇利用、それから高齢者の病院への通院や買物など、幅広い年齢層の市民の皆様にとりまして、公共交通の利便性向上が喫緊の課題であるとの認識について、市も同感であります。

御指摘のとおり、路線バスの運行本数を増やすことは、運転手の労働時間の増加や、燃料費をはじめとする運行経費の増大といった課題を伴います。持続可能な公共交通サービスを提供するためには、これらのコストを考慮しつつ、市民の皆様のニーズに応じた利便性の高い最適な運行形態を検討することが必要であります。

御提案いただきました、利用の少ない時間帯のバスを減らし、夕方から夜にかけての本数を増やすという点につきましては、運行の効率化を図る上で大変重要な視点であると考えております。

しかしながら、時間帯などの本数を増減させるということは、例えば1つの路線を現状2台で運行しているところを、利用が少ない時間帯を1台で、多い時間帯は3台で運行するということになる可能性があるわけでありまして、そのため、現状以上のバスと運転手を増やす必要がありまして、コストが上がるだけではなくて、全国的に運転手不足と言われている中で、台数を増大することは持続可能ではないと考えております。

現在、本市では、人工知能が乗合最適ルートを決定的に決定いたしますA I オンデマンドシステムを導入した乗合タクシーを市内全域で運行いたしております。これは、既存の路線バスではカバーし切れない時間帯や地域におきまして、柔軟な移動手段を提供することを目的としております。路線バスよりも比較的容易に調整できるため、利用者が多い時間帯や運行台数を増やすなど、利便性の向上を図りながら運行をいたしております。

また、現在は、市内の小学生、中学生、高校生と70歳以上の方々を対象に、月額3,000円で乗合タクシーを乗り放題にする実証事業を進めております。これによりまして、バスやタクシー、乗合タクシーなど、それぞれの詳細な利用状況を時間帯別、利用者層別に分析して、真にニーズが高い時間帯やルートを特定します。そうした実証によるデータや皆さんの声を聞いて、事業者と密接に連携して、実情に即した運行計画の策定を進めているところであり

ます。

また、地域住民の皆様からの御意見も継続的に伺いまして、よりよい公共交通網の構築を目指していきたいと考えております。

市民の皆様が簡単、便利に移動できる環境を整えるというのは、公共政策を推進する上において市の重要な責任だと考えております。いただきました貴重な御意見を踏まえまして、山中地区だけではなくて、市内全域の公共交通の改善に取り組んでいきたいと考えております。

木下議員が先ほど言われた、やっぱり効率的に動かすと、移動手段を最適化させるということは、我々も以前からずっと考えていることであります。その一つ、第一歩として今、乗合タクシーの実証事業を進めているんですが、市内には、例えば旅館のマイクロバス、空いている時間帯がある。福祉施設などの送迎のバスで空いている時間も中にあるわけですね。そういうものをうまく組み合わせて、様々な移動手段を組み合わせて有機的に活用していくという、モビリティ・アズ・ア・サービスという、そういうシステムが世界で既に行われておりますので、モビリティ・アズ・ア・サービスって知っていますか。知らないね。ぜひ、いい機会なので一緒に研究して、最終的にそういうものを我々の大きな目標に掲げておりますので、中学生の皆さん方にも御協力いただいて、こういう運行体系がおもしろいぞというのがありましたら、ぜひまた木下議員の御提案でお願いしたいなというふうに思います。

○議長（西 穂菜実君） 木下珀人君。

○木下珀人君 以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（西 穂菜実君） 木下珀人君の質問及び答弁は終わりました。

中学生議員の加賀市政に対する一般質問は全て終わりました。

以上をもって本日の議事全部を終了いたしました。

中学生議員の皆さん、本日は大変お疲れさまでした。

私たち中学生が日頃から思っている疑問や意見が市当局に十分伝わったことと思います。

また、宮元市長、松本教育長におかれましては、丁寧な御答弁ありがとうございました。

最後に、今回の中学生議会の開催に当たって補佐をしていただいた市議会議員の皆様にお礼を申し上げます。ありがとうございました。

中学生議会はこれをもって閉会いたします。

講 評

○上田副議長 皆様、お疲れさまでございました。先ほども西議長からありましたが、市長、そして教育長、また、補佐していただいた議員の皆さん、そして、特に中学生議員の皆さん、お疲れさまでした。そしてまた、今日は傍聴席に学校の先生や親御さんたちが来ていただいていると思いますが、本当に傍聴していただきましてありがとうございます。

では、ここで、宮元市長より講評をいただきたいと存じます。宮元市長、よろしくお願

いたします。

○宮元市長 今、上田副議長のほうからお話がありました。まずもって、議場の皆さん、それから学校関係者の方々、そして傍聴席におられる保護者の方々にまずお礼を申し上げたいと思いますし、中学生議員の皆様方には、質問をいろいろと練っていただいて、そして御参加をいただきましたこと、本当に改めてお礼を申し上げたいという気持ちでいっぱいです。今日の場合というのは、恐らく長い人生の中でなかなか経験できないことだと思います。ぜひこの機会を生かして、これからの勉学に生かしていただきたいなというふうに思っています。

今日も様々な質問をいただきまして、我々の思っていることとやはり同じことを中学生の方々も考えていらっしゃるなど。やはりどうしたらうまくいくか、どうしたら効率的になるかみたいなことも共通認識として一緒だなというふうなことを思いました。そういう意味では、未来型商業エリアの話もありましたけれども、やはり非常に期待をして皆さん待っていただいているということも、何となく気持ちとして伝わってくるものがありました。

数年前、東和中学校へ視察に行きましたときに、そのときに何人かの生徒さんから、市長、定期テストやめてよと、廃止してという声もう何人もの生徒からあったのは、今でももう記憶に非常に深く残っておりまして、それだけテストというのは好きじゃないということですよ。みんなそうなんですけれども、そう言って、テストを受けなくても、今の例えば中学校が教育改革をやっていますけれども、自ら進んで学ぶような習慣とか姿勢が出来上がれば本来テストなんか要らないと私も思っております。そういう意味では、今、教育委員会主導でやってもらっている教育改革は、非常に意義深い、島谷教育長から今の松本教育長にかけて進めている教育改革は非常に素晴らしいと私も思っておりますので、ぜひ本当の意味でのテストなんか要らない中学校を考えていただいて、自ら進んで学び、創造性豊かな中学校を、加賀市の中学校はすごいぞというふうになっていただけるように、我々も一緒になって努力したいというふうに思っています。

皆様方は、加賀市の宝です。将来、君たちが日本や加賀市を背負っていただく、本当の宝物であります。皆様のためには、我々はあらん限りの努力を傾注していきたい、年を重ねていきたい、皆様方を応援したい、そんな気持ちでいっぱいです。さらなるこれからの活動、勉強に期待して、私からの、講評になるかどうか分かりませんが、講評とさせていただきます。ありがとうございました。

○上田副議長 宮元市長、ありがとうございました。

以上をもちまして中学生議会を終了したいと思います。私らの議会も再来週から本会議がスタートでございます。皆さん、何か、10分ぐらいしか時間がなかったので、言い足りないとか、再質問を受け付けませんでしたので、もっと言いたいということがあれば補佐役の議員さんに言っていただければ、今度、2週間後の私ら議員の議会でも取り上げることも可能ですので、ぜひ言っていただければと思います。

以上をもちまして中学生議会を終了したいと思います。

なお、中学生議員の皆様、市長、副市長、教育長、議員、議長、そして補佐役議員の皆さん、最後に集合写真を撮りますので、よろしくお願ひしたいと思います。そのままお待ちください。

皆さん、本当にお疲れさまでした。ありがとうございました。